



令和4年度(2022年度)第7号  
豊中市立北緑丘小学校  
令和4年(2022年) 11月 1日

# つながる 学校

- 自分で考え、判断する力を持つ子ども
- 自分で目標に向かって、努力を続ける子ども
- ちがいを認め合い、相手の立場を尊重し、仲間とつながりあえる子ども

後半もがんばりましょう

桜の葉が紅く染まり始め、秋の深まりを感じる季節になりました。朝晩の空気が冷たく感じられます。朝のあいさつをしていると、両手をポケットに入れながら歩いている姿を見かけるようになりました。寒いのはわかりますが、そのままこけてしまうと顔を守りきれずに、大きなケガをすることもあるので注意しましょう。

21日(金)に「のびゆくこども」が渡されました。前期の学習や行事、係などでがんばったこと、これから取り組んでほしいアドバイスなど先生方のメッセージに思いが込められていました。後半も心優しい北緑丘小学校の子どもとして、がんばってほしいと思います。

## 全国学力・学習状況調査の結果について

4月19日に6年生を対象として全国学力・学習状況調査が行われました。今年度は、例年の国語、算数に加え理科も実施されました。この目的は児童生徒の学力や学習状況を把握し、今後の教育に役立てることです。ですが、結果については正答率が高ければ頑張っていると評価されてしまっている面があるようです。改めて当初の目的を大事にし、授業改善へのヒントとしていきたいと思います。

なお文部科学省HPに調査問題が掲載されています。

## 国語

### よくがんばっているところ

- ・話し言葉と書き言葉との違いを理解する
- ・言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える
- ・登場人物の相互関係について、描写をもとに捉える

### 課題・これからの改善点

- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像する
- ・表現の効果を考える
- ・文章全体の構成や書き表し方などに注目して文や文章を整える
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う

②の物語文において二の問題は、物語から伝わってくることを考え、人物像や物語の全体像を想像し、空欄に入る内容を書く問題です。この問題で、大阪府・全国を上回る15%以上の無回答率が気になります。書いてみるとイメージが広がり、文字が埋まっていったということはよくあります。

漢字はもう一度、復習をしましょう。たくさん書けばよいのではなく、例えばタブレットを使ってゲーム感覚で覚えるのもいい方法かもしれません。

## 算数 よくがんばっているところ

- ・示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる
- ・百分率であらわされた割合を分数であらわすことができる
- ・表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求めることができる

### 課題・これからの改善点

- ・数量が変わっても割合は変わらないことを理解している
- ・伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述できる
- ・図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している

ここでも無回答が高い問題に共通点がありました。それは「言葉と数を使って書きましょう」とか「式と言葉を使って書きましょう」と書かれているものです。今までは、「式と答えを解けばOK!」と思われていました。しかし、今は「**数学的な見方・考え方**」を重要と考える言葉を使って問題の方が重要視されている傾向にあります。本校としてもこれからの課題としてとらえていきたいと考えています。

## 理科 よくがんばっているところ

- ・問題を解決するために必要な観察の視点を基に、道筋を構想し、自分の考えを持つことができる
- ・実験に使う器具を理解している
- ・観察で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる

### 課題・これからの改善点

- ・観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えを持つことができる
- ・日航は直進することを理解している
- ・実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる

問題3(4)では、色の異なる4つのかんに水を入れ、鏡で太陽光をあてて、20・40分後の温度結果から、はなこさんがまとめたわけを考える問題でした。ここでも算数と同じように「**【結果】**を使ってかきましよう」の無回答が全国よりも多くなっているのが課題となっているようです。

3教科ともに言えることですが、課題となっている問題の無回答が全国平均より高くなっていることが気になりました。試験において、まとめて考えて書くということは、誰にとっても簡単なことではありませんが、まず、書いてみないことには始まりません。途中であきらめずに、粘り強くなれるよう、私たちも取り組んでいきたいと考えています。